

昭和16年11月1日（土）

大概晴れ。報告物及び電報原書整理を了す。うどん、メリケンコ、菓子等の土産品と、坊の着物風呂敷包み二つに組み括り、肩に担げるようにして、坊を抱き、ミワさんに送られて十一時出発。空席は幸いありしも、小倉にては超満員。余の子供を抱ける姿に、席を譲り呉れたる人あり。感謝しつつ席に着く。三時着。南新町にて道子迎えに来て居る。バスは統制の為、廃業。徒歩を余儀なくされたり。五時夕食。十時寝床。

昭和16年11月2日（日）

晴れ。時に雲薄く幾分寒し。朝飯前、午前八時出発。十六分の下りに不結果を知りつつ出してみる。次いで五十分野口、前田両氏のみ。森田さん不来。今朝五時の出発は、森田さんには難儀と見らる。かくて両女を連れ帰宅、朝食。握り飯未だ食ふ暇なかりしとのことに、別に副食物の鯨、鯖の煮付けなど出す。十時頃より出発。岩田屋前より左に西公園に。水上公園の一部を見て、西公園に。夫れより天神町下車。福岡電信局に電信機械室を見せて貰ふ。印刷電信機を初めて見る。斯くて箱崎に至り、次いで動物園を大人15にて見る。昼飯は東中洲大阪屋。ランチ70、代用食にて済ます。玉屋前にて野口氏に三円与ひて、夜食及び活動写真料をと予定す。余は一旦帰宅。袴を穿き名刺を携へて、七時に二十分前出発。福日社前にて待つ。野口氏等と裏口より入り、取次を乞ふ。七時半まで猶十分を剩す。其の間、社員氏より色々説明を聴く。朝刊輪転機の印刷能率等を聴き、三日の新聞を貰ひ、発送の作業状況をも見て、八時飯途に就き、野口さんと澄子は湯に行けり。坊も一緒に連れて貰ふ。前田さんは

足、跛行（はこう）の嫌いあり。大分疲労せしらし。夕飯は玉屋で代用食にて済ませりと。

昭和16年11月3日（月）

明治節。曇り、時に陽光を仰ぐ。岩田屋にて偶々（たまたま）国民学校生徒、創作品展覧会を見る。中津健ちゃんの姉さん、女学校三年の安全ランプが特賞に入選しあるあり。文部大臣賞のものもありて鑑賞に値するも、出品多数にて一々点検する違（いとま）なく、中途に端折り、食堂に行けば満員にて、更に松屋に行く。空席を得たるも、代用食と聞いて皆尻込みす。三度場所を換え、森永の二階に上がり、ランチ50注文す。然るに飯売切れ、炊き直し居る間、五分余裕を求む。これまでも十数分待たされたる後なりし。余は其の俣帰宅。澄子メッセンジャーに、久子の荷物、米六升衣類等、行李一ヶ40にて、四時半まで持ち運び呉る様、手配したる由。余、四時より夕食を初む。四時半を過ぐるも荷物受取に不来。澄子気を揉み其の家に至り、余は飯を中途に行李を抱き、道子に電車切符を求めしめ、アジアペンまで到るに、自転車にて駆せ付けたる男、余を呼び止め「松川さんではありませんか」。是れなるメッセンジャーなり。其者に荷物を渡し、電車にて駅に至るに、其の男切符を余に遣れ30を要求す。最初の約束より10廉（やす）し。野口氏に借りて遣る。発車五時十六分、殆ど待つ間なく発車。満員の姿にて、立ち往生せられしならん。気の毒に思ひ居たり。余り急ぎし為、久子へ遣る握り飯は失念し、野口氏、折角頼まれて其の甲斐なかりしを遺憾がるも、致し方なし。

昭和16年11月4日（火）

快晴、日中頗る暖かなり。申又洗濯。夕食に澄子パンを作る。こちらに来て湯煖房を使用す。坊にやらずに余、之を用ふ。甚だ不合理なり。此日、ミワさんより坊の写真二枚送り越さる。先月二十六日撮影のもの。今度の分は頗る大きく半身なるが、前よりはよくとれたり。貢へ遣って呉れとあり。余自ら筆を執りて手紙を認め、写真を挿入、澄子に発送せしむ。涎掛けがなければ、三四歳位の容姿に見ゆ。眼の配り、口元の緊り、誠に怜悯想に見ゆ。これが二百日とは誰も肯定せぬと思はれたり。

昭和16年11月5日（水）

快晴。日中暖かにして、陽春の季節とも疑ふべし。西公園の桜花、時を誤り、花片々繚（めぐ）れ咲けるを見る。蒲団、陽に乾す。簗島局に至り、年金15受取る。十時半為替女性一、郵便に代理員一名の配置にて、二十名以上行列造りて己の番を待つ。十一時少女事務員一名来たり、稍緩和せらる。窓に事務員志願の心当たりあらば、申し込まれたき旨掲示しあり。以前より引き続き掲出らし。

昭和16年11月6日（木）

快晴、坊を掾（えん）近くに寝かし遊ばす。新聞を読み、向上を見る。時に坊が泣けば守りす。組長さんの娘の三年生の子供が、午後より坊を負ふて加勢し呉る。其の都度夕食を馳走するか、菓子遣る。強いて何か代償を求むる態度に出でざる点に、家庭教育の床しさあり。此日道子より久子の腹の子、常時（じょうじ）に非ずと申し出でたり。是に付き、屢々愛子と往復通信したるさまが判明せり。曩に浜口トミ子に久子より打ち明け相談せしらし。

詢（まこと）に困ったことになりし。余の潔癖、色々考慮したるも、正直に打開けること以外に途なきと認めつつ、一切は道子の裁量に任せ、余は知らぬ態にせり。坊を連れ一寸堤上に外出せり。蒲団乾かす。

昭和16年11月7日（金）

此日の快晴は毛布を乾す。夕方より多少冷風。小野純一氏に昨手紙書き、今朝投函せしむ。久子より手紙あり。巖も万事休す等と書きあり。日中は暖かなり。坊消化悪く、数回便通あり。朝は異常なきも、二回三回となるに従ひ下痢便となる。

昭和16年11月8日（土）

曇り、午後より多少陽射しあり。澄子火鉢に火を採り呉る。左程寒さを感じざりし。夕方近く薄陽射し、晴れ模様となる。坊や湯に行く。澄子先に行き、道子後より坊を連る。良助に夜、手紙書き十一時に及ぶ。「まこと」到着に付き（10月28日発行分）、九月分と併せ発送手配せり。

昭和16年11月9日（日）

快晴。十時頃、澄子市場行き。道子、坊を連れ一緒に行く。十二時頃販り、鯨なしと云ふ。サンマ求め来る。余次いで外出。良助への手紙、森田、木下、北野氏への「まこと」誌を本局にて発送。塗料店に至る。エナメルのみにて何もなし。物資乏しく悉く売切れ。後、補充不能の由。下駄緒三束1,30求め、松屋にて切符を整ひ、セルロイドキューピー人形一円、ガラガラ40及び30にて1円70銭支払い、四時頃販宅すれば、藤岡レイ子氏来たりし由。何にも貰わぬことにせし由、道子告ぐ。余より

ミワさんより、東京新宿にて、デパートの名前で送り届けられたる禪の白木綿とガーゼを一丈程遣る。剃刀を研ぐ。

昭和16年11月10日（月）

此の朝九時十二分発にて中津行き決行。朝飯前、理髪剃刀あてて貰ふ。八時半出発。道子荷物持呉る。余、坊を連る。駅にて多少待合いあり。幸ひ列車に空席に割込み、坊を連れ出入口に出て惜別す。小倉よりは、女学生宮崎修学旅行の一行に、坊の可愛い姿を睜（みつ）め、抱かせて呉れと言寄る。二駅程彼等に任せるに、坊が泣くを聞き匆皇取り返す。間もなく一人の女学生、ビスケはしゃぶらぬかと質す。余、未だしと答ふ。甚だ失望の体なりし。余の向かい側に居る人、深切に荷物を取り落とし運搬し呉る。ミワさん駅に出迎ひらる。荷物の中に湯呑み二ヶ、散々に破壊し居たるを発見せり。此の日快晴。坊の乳貰ひ、到着と同時に初まる。五時に一回、夜は九時。玄米類を遣る。風呂休業。

昭和16年11月11日（火）

ミワさん坊連れ神詣で。次いで巖宅に至り、久子に福岡より御握り持来たりし所以を話す。鶴居局長、一昨夜九時、自宅裏土蔵を背に換え置きし薪に火を起こし、災害多少あり。母屋が焼けしやに聞きたる故、余は此朝、和服にて見舞に行き局長に面接。原因も子供の弄火を認め居らる。其の儘販る。町を突端に大福餅あり。猶、売残り拾ヶ程あり。販りに求むる積もりにて立寄りしに、既に売り竭くしあり。天気快晴。頗る暖かし。久子夕方来る。ミワさん余の来る前日、巖方に至り、久子食糧米二升（麦入らず）持参せし由なるが、曩に六升遣り、今又二升遣

りしは算出根拠を誤りたる感あり。尤もミワさんは、六升遣りしことは知悉し居らざる為なり。

昭和16年11月12日（水）

朝来曇り、遂に終日陽光を仰がず。昨日は、新聞を一面満足に閲覧せずして火災見舞に行きたるも、本朝は坊を寝かせて新聞を見る。此朝、余四時半起床。坊も克く寝居るを起こすも気の毒と、神様に連行せざりし。一時より乳貰ひ行く。勝恵ちゃん百日せきらしと。井上医師に依り注射し、十一時過ぎ、飯り途立ち寄らる。婆ちゃんに抱かれ、当分、坊の乳呑み姑（しば）らく我慢下されと云ふ。政恵さんも裾長の着物にて母堂の側に在り。玄米粉求め、片栗粉も求め来らる。七時、坊を連れミワさん湯に行かれ、久子三十分後に行く。毎夜火鉢に火を採る。多少睡きも、或時間後は眠らぬも辛抱出来る。久子脱脂綿求め来たり。一元五十銭交付す。野口さんと大門薬店に行きたるらし。知人以外には売らぬ如し。

昭和16年11月13日（木）

昨夜来降雨。今朝降り歇まず。夜明けと共に歇み、曇天の俣夕方に及ぶ。四時前後陽光を見る。坊の着物を洗ひ乾かす。然るに再び降雨。急ぎ引き下ろし、軒下に垂るる間もなく降り歇む。甘藷、先日一家三百匁の配給あり。鼠に食われて三分の一を残す。此朝蒸して下さる。正午頃、朝吹氏来訪。愛子の手紙、久子に届けらる。自分は病気で病院に頼みに行けぬから、そちらで頼み呉れとのこと。福岡より五拾円送金ありて、其の小為替はミワさん受取呉る。久子昨の1円50銭を返戻し来る。改めて久子に遣はす。脱脂綿36銭にて二階の人々に一ヶづつ、

他に参ヶを求め来らる。悉く久子に渡さる。夜、味飯久子炊く。午後七時ミワさん方、湯に。坊やは後刻、余連れ行く。眠い為か駄々をこね泣く。其の俣湯に連れ行く。湯に入れるべく襦袢を脱がす際、及び襦袢をさせる際、可なり泣き反り身になりて、兩人して取り押さえつつ襦袢をして連れ販る。途中眠りしと云ふ。坊五分置きに小便で襦袢を汚す。

昭和16年11月14日（金）

午前四時頃より降雨、間もなく歇む。坊神様へ。天気次第に晴れ、臈（やが）て快晴となる。切手取りに行く。本局、阿部氏見学の為に出張。同局に勤務の永友さんに面会。停車場まで送り呉れ、余への土産物羊羹を依託され、持来らる。朝飯は昨夜の味付け飯の残り頂く。大川薬店よりミワさん、ガーゼ三貼持来らる。横田へ見舞に行かる。熱はなき由。夜九時近く、坊を湯に入れて貰ふ。例の如し。

昭和16年11月15日（土）

快晴。豆債券売出の処、配付数少なき為、要望に副う能はず。中津局より100枚現金にて購入。逓信局交付150枚は、此日売切れとなる。午後那須巖氏臨局。何か土産持参、果物と認めたり。道子より手紙と葉書と来る。葉書は、弁護士山根さんを甚十郎さんから頼んで呉れとのこと。貢より手紙ありと。自分より甚十郎さんに依頼するのが当然なるも、幾ら手紙遣りても返事を呉れぬ人故、憂鬱になるから、ミワさんより頼んで貰ひたいとのこと。夜うどん頂く。八時半ミワさん神詣で。湯に坊を連れ神様に行かぬことにしありたるを、湯は止めにしたるなり。坊

鼻水出で、乳を時々吐く。風邪気味。朝の間、日向（ひなた）に連れ少時遊ばす。睡りて新聞見る。那須君、子供三名となり、長は男子八歳、国民学校一年。次は五歳女児、次は七ヶ月の男子。坊より30日間近く遅れて生まると云ふ。夜坊と共に休む。斯くて坊を中にして寝るも、夜半の襁褓は、余取換ふ。夜半十二時の分は、ミワさん起きて呉る。二階、芝居終了後の役者も泊まりしらし。十一時半頃、頗る賑やかなり。十二時近く寝る。夜も晴れ。秋野さんより貰ひし黒羊羹二本宛て頂く。

昭和16年11月16日（日）

快晴。夜風風ぎ、襁褓乾かず。昨夜うどん沢山頂く。腹具合心配せし位なりしも、格別のことあらざりし。朝飯後、坊睡入りて、久子を連れミワさん神詣で安産祈願。四時頃、栗二百目求め来らる。夜茹でて夕食事時、分配。電報整理、件名表登記。朝九時、横田氏嬢を連れ医かか行かる。熱はなき由なるも、形容枯渴しありと。余は食事中とて面会せず。販りに立寄るかと思ひの外、直様帰宅されしらし。ミワさん貯蓄債券売り竭（つ）くしに、本日も坊を連れ活動の結果、拾数枚悉く売り竭くさる。午後八時坊を湯に連れ行く。熟睡し居りたるもの。販り途中に眠れる由。

昭和16年11月17日（月）

朝詣り。襁褓なかなか乾かぬので、昨夜数枚火に乾かす。其れでも漸く間に合わせたるも、朝まで乾燥せぬなら、再び火に乾かさねばならざりし。如何に快晴でも陽光射さず、従って乾燥鈍し。帝国議会、昨日第七十七回、東条首相、帝国の所信を披瀝し、録音に依り全国に放送

さる。米国との関係緊逼を加ふ。松葉かき箒1, 25、赤帯?45、物乾し竿20づつ二本求め来らる。今日快晴。夜、湯を見合はず。坊鼻水出し、咳時々するを以てなり。併し熱はなし。

昭和16年11月18日（火）

初めの間は快晴、午後より曇り。薄陽射す。おむつ大部分乾く。午後六時、久子を加へ全員湯に行く。余独り留守。昨夜野口さん、徳永鉄工所より夕飯前来ていと使い来たり。御馳走になりたる由、ミワさん咄さる。兎角、緊張味を欠ける日に限り事故多きものの如し。前田さん欠勤の為、野口さん専任。其の衝に当たる。六時を過ぎて猶机を離れず。五十円に50銭不足の49, 5円欠損す。久子の許、藤岡より五十円送金在り。四十円預け置きたる由。十円を加え送金ありたること、苦痛なりしなるべし。市営病院に入院せしものの如し。此日道子より塩10銭送り呉れと申越しあり。静江氏よりも襦袢のことに付き、一二枚送付方申遣りしに、余分は一枚もなしと断り来りし由。無情に呆れ居れり。久子ガーゼを求めに薬屋を巡りし由なるも、断られたる由。更にミワさんと行き色々求め来らる。メンソ50二ヶ、ガーゼ三袋、塩10銭等々。坊や早く湯に行き、余抱き寝かす。野口氏為替欠損49, 50。

昭和16年11月19日（水）

午前二時頃強震あり。時計振り止まる。坊夜半に泣きて容易に寝らず、当惑せり。朝五時に熟睡し居る為、神詣でせしめず。七時目覚め牛乳呉る。野口氏の不足金、半額補填。前田さん出勤。ミワさん道子に手紙出さる。夜とろろ汁。余味噌作る。油多過ぎたらし。坊風呂止む。

鼻水多く出し、咳時々するを以てなり。夜半降雨。朝曇り、薄陽射す。油味噌の関係とも思われざりしが、朝より幾分もたれ気味なりし処へ、過食したる為、胃膨脹し遂に嘔吐す。是にて余程具合よくなる。十時半寝る。野口氏、帝国生命に事務員を希望し、久子に話し居る如し。余敢えて不満顔せず。寧ろ本人の将来とあらば、賛成するに躊躇せぬ態度を採る。但し、余の家に置くことは出来ぬと久子に注意す。

昭和16年11月20日（木）

晴れたり曇ったり、遂に降雨を見ず。襦袢乾く。ミワさん九時、久子連れ細川医院に行かれ、十時半帰り、玄米粉、及びメリケン粉等を求め来らる。玄米粉製造元にて、小麦粉も売り居れり。12銭のを14銭にて闇売りせし由。久子の産期は十二月二十三日とあり。現在に於いて発育充分と云はる。入院は腹痛を感じてからにて良しと云はる。目下腎臓悪しとて、薬二種交付さる。毎日温暖の俣にて凌ぎ良し。感謝の日を送り居る。夜、火を行火に入れたるも、全く其の要なかりし。八時、坊を湯に連れて行く。中津局へ切手代金払込は、余赴きたり。竹折さん、市と銀行との腐れ縁にて、郵便局が割込む余地なきに付き、今日まで請求は中津局にせよと下命しつつ今日に至り、直接請求（逓信局へ）せよと申来らる。

昭和16年11月21日（金）

曇り、坊神詣です。此の朝七時過ぎ、橋内信子さんあり。甘藷持来る。一貫目なし。目下裁判所に勤務中とあり。五時過ぎ飯る際、風呂敷包み返戻。練り羊羹1、揚げ蒲鉾2謝礼す。夕食時頂く。二階にも幾分遣る。今日うどん

沢山求め来らる。余の手許より1, 90遣る。一把16銭、蒲鋒60、麦粉五百目70、赤玉粉百目18、二百目36、うどん16把の内5把、持参のこととし、外に白米2升、蒲鋒10本、メンソレ50、ガーゼ3袋等。夜梱包二包みとし、絲にて括し肩に垂れることにす。坊夕方湯に連れ行かる。

昭和16年11月22日（土）

晴れ。切手類請取りに行き、其の符合を確かむ。貯金過払い事故、外一件ありて、此等処理して午後一時を過ぐ。急ぎ仕度を整へ、荷物は野口さん持呉る。森田さんも一緒に出発。同じ室に乗込む。行橋にて分袂。余の荷物中、塩が一番重量あり。小倉にて満員、幸に割込まる。車内整理に手間取り10分以上遅着。道子待居る。坊を遣り、荷物は余携行。南新町より余先に戻る。澄子夕餉の仕度をなし居る。坊の為、車内にて二度襪襪取換ふ。

昭和16年11月23日（日）

新嘗祭。朝来降雨。九時前出発。千代町角にてバス（往復70、片道40）に乗る。神社前にて下車。今年バスにて神社前にて下車。雨漸く繁し。神社内にては新嘗祭の行事を施行中。久子の為、産児の無事を祈念し神社裏の石を拾う。女の名を掲げあり。女のを拾えば生まるる児男子なる由。誰に尋ねても女子と云ふも可笑し。還りのバス、尚待合い居る。夫れに乗り千代町に出て、玉屋にて、ねんねこ銘仙16, 50円求め、松屋にて裏地6, 90求め、接合剤50、其の他切れ地（これは玉屋にて4, 95円、外に4, 35円）を求め、二時帰宅。坊小便にて着物まで濡る。二時過ぎ再び松屋に至り、買物して四時十分、電車にて博多駅に直行（玉屋地階に金平糖売出

の行列中に割り込み、54にて一袋求め、道子等に土産す。寒天と砂糖とにて調製のもの)。四時五十分準急に間に合ひ、夫れに乗込ま。家に販りしとき五時二十分。

昭和16年11月24日（月）

晴れ、後曇り。永友秋野さんに手紙を書く。道子より葉書にて出せし由。久子の通信に基づく。此の日は外出せず。坊を連れ道子湯に行く。夜熟睡せず。兩人共、頗る当惑の態なり。

昭和16年11月25日（火）

晴れ。薄雲かかり快適ならず。山根弁護士に手紙書く。坊克く泣く。而して余抱けば泣き歇む。澄子歯がゆがること甚だし。抱き加減と云ふも、必ずしも抱上げるのみにあらず。寝かす場合も、他の者では泣き止まず。余傍らに守りすれば泣くことなし。（昨日箱崎八幡宮にも参拝。ここにても新嘗祭の祭典は執行され居れり。）

昭和16年11月26日（水）

午前八時半出発。道子駅まで送る。切符を買って貰ふ。空席あり。小倉にても同様。此の日快晴、頗る温暖なり。ミワさん駅に待ち居らる。留守中二十五日、午前10時より羅漢寺楽山荘にて会議。豊後町局長、及び深抹局長の退職、及び就職披露宴会あり。午後一時よりミワさん代わりに行かる。後藤寺、何野種久氏、妻女来訪。三等局長就職の意向なる如しと。此日横田より甘藷持ち来らる。三時頃、土産羽織裏地持参。ねんねこ裁縫方依頼さる。衿ビロードは、市内野衣呉服店に一枚残留しありとて購入。坊のおしめカバー1、20求めらる。為替百円不

足。前田さん泣き居る。ミワさん証拠書の計数を算入。余も振替を算入。偶々百円不適合を発見。これにて問題解消。六時半帰宅。九月二十六日、七円貳拾銭不足分は、本日80銭の貯金預入れに対し、八円と記入関係判明。臨時払います。坊八時過ぎ、湯に野口さん連れ行き、ミワさん連れ戻る。森田さん帰着後発熱、欠勤。電報にて二十八日迄、休養方申し出あり。ミワさん販りは行橋にて一緒になると云ふので、車内隈なく見廻りしも、見当たらず。中津駅にても野口さん等迎えて呉れしも、畢竟、森田さんを目標にせしもの。

昭和16年11月27日（木）

曇り、薄陽射す。夕方より次第に雲濃くなり、雨となると予報す。日暮れて雨降り出づ。坊、湯休み。余七時頃より坊を守りし寝かせたる儘、余も遂に眠り執務せず。此日降雨にて、坊を見に来るらしき口吻なりしも見えざりし。赤坊の病気は全快。乳も与ひてよしとのこと、小母さんより申出ありしと。

昭和16年11月28日（金）

夜は雨にて明けぬ。切手請求。午後より余、請取りに行く。此頃風強く、襪襦乾き早し。碧空を認め得、襪襦概ね乾きたり。夕食甘藷。市内にて呉服屋に久子行きたるに、警察より販売停止方通達。来月より差し支えなかるべしと云ふ。三時頃、西牟田さん来局。?????行かる。洋裁習ひに呉るらし。小さい弟は徴兵に出征して、横腹に負傷して、戦地の?????弟は熊本医大、本年十二月卒業の由。午後五時頃、森田さん販局。多分今月中?????こととて皆歓迎したり。七時久子湯に行き、二十分遅れ

てミワさん、母堂と坊を連れ行かる?????横田の母堂に入れて貰ふと。此日、中津局照会の貯金受払いの金額、15年1月から?????割合の算出調書の提出。朝より午後まで費やせり。給料昨日到着。夫々支給を?????筈なりし。(インクの染み黒ずみて、判読不能の箇所かなり多し。)

昭和16年11月29日 (土)

曇り、次第に晴れ。寒気頓(とみ)に加はる。窓口混雑の為、新聞中途にして出勤。此日資金請求。前田さん拾円欠損。坊、朝なかなか睡らぬ。漸く眠りたるも一時間余にして目覚む。風強く時々曇り。襦袢乾く。着物も濡らしたるも、乾き早き為、差し支えなし。坊八時四十分、湯に連れ行く。夕食うどん頂く。寒さ加わりし為、湯煖房母堂も久子も使用。久子分陶器1, 40にて求め来らる。余の分は昨年修理の古物なり。昨夜より使用。

昭和16年11月30日 (日)

新聞をも見ず出局。電報の件名表を作成。折柄駅員来たり。据置き貯金、期間内払戻し方申出づ。大略其の俣にして遣ることにし、午後四時再び来たる際、夫れ々々作成済み。明日、即時払いの手続きを為すべき旨、通告。電報件名表作成に着手。夜半一時までかかる。此の日四日市でラジオ体操の会あり。伊勢員出場す。豊後町よりは局長自ら出頭、参加したる由。午後二時頃まで済み、夫れより宇佐に来拜せる由。夕方近く飯局。森田さん方の後を追ふて、呉服屋を訪ね廻り、何か調達したるらし。野口氏等は福岡行きの際、森田さん不参加の為、金目の物を求めざりしやにて、此の日市内にて金沙の羽織を求め来らる。伊勢員も何か求めたるらし。伊勢さんの姉

さん、迎えに来らる。二階の部屋にて待つよう薦めたるも  
上がりず。其の内に販り来たり、一緒に販宅さる。余、  
午前一時を過るまで報告物作成に没頭す。寒さ漸く加は  
り来る。坊風呂行き、午後十時頃。横田の母堂、小母さ  
んと来たり。坊もお乳を、もう一ヶ月飲みに行くことに話  
合いせる如し。卵及び甘藷を調達するやに聞く。夜、パ  
ン久子に依り調製のを頂く。